

猿 橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

節目で伸びる

校長 磯部 裕之

ここ数年の暑さで、日本の「四季」を「五季」に変えて考えているというニュースを耳にしました。あるアパレルメーカーが、昨年、衣料品を8月に夏物から秋物に切り替えたために、夏物を売るチャンスを逃してしまったという反省から生まれた考えだそうです。今年は季節の区切りを変え、夏を5ヵ月に増やして、5～7月を「初夏・盛夏」、8・9月を「猛暑」の2つに分けて商品の販売に生かしているとのことでした。その分、春と秋を1ヵ月ずつ短く捉えているという説明も、ここ数年の気候の現状に合っているように思いました。

季節が一年の大きな節目だとすると、学校の節目は各学期、そしてその中で行われる行事もそれぞれが節目だと考えられます。2学期は、例年どおりの大きな行事、親善陸上大会（6年生）、自然教室（5年生）、音楽交歓会（4年生）、持久走記録会（全校）と立派にやり遂げてきました。そして10月には、創立150周年記念式典も盛大に行われました。参加いただいたご来賓やPTA役員の皆様からは、「子どもたちの歌声が本当に素晴らしかった」とお褒めの言葉をいただきました。PTAの皆様と力を合わせて、立派な式典としてやり遂げることができて本当によかったと感謝しております。私たち大人も成長できた気がします。

学校行事のほかに、児童会主催のキラキラカーニバルも2学期の大きなイベントです。委員会の子どもたちが企画し、5・6年生の各クラスが自分たちで考えた出店を準備して、1～4年生は、各店で楽しむという、猿橋小の伝統的なイベントとして受け継がれてきています。

6年生のあるクラスの学級だよりにこんな記事がありました。

ある学級委員の子が、準備で行うことを綿密に計画し、1枚の紙にびっしりとまとめてきました。ここまでやってくるのかと本当に驚きました。その紙を他の子どもたちに紹介すると、子どもたちの目の色が変わりました。子どもたちの心に火がついた瞬間でした。私の想像をはるかに越えて、子どもたちが輝く姿にじんと来ました。

他の学級でも、いろいろなドラマがあったことでしょう。学習以外でも、こうした行事やイベント、交流会などをおして、自信をつけたり、力を合わせることの大切さや喜びを実感したりしながら子どもたちは成長していくのだと思います。2学期の4ヵ月の間に、頑張ったこと、できるようになったことを是非話題にして、ご家庭でも大いにほめてほしいと思います。

おかげ様で、充実の2学期となりました。学校の教育活動へのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。3学期もどうぞよろしくお願い致します。皆様、よい年をお迎えください。